

今回は医療法人社団晴澄会が運営する栃木県の介護付きホーム、宝木荘の事例を紹介いたします。4年前から帳票作成業務は介護記録ソフトにより管理され、科学的介護の身体機能維持向上等に

LIFE活用による介護DX推進



株式会社
ブルーオーシャンシステム
開発部 企画グループ課長
沖本 崇
(おきもと たかし)

映像制作会社、ブライダルカメラマンから介護業界へ入職。営業部門、カスタマー部門を経て現在は主に営業推進、広報活動に従事。創業から介護業界のDX化を推進する会社の思いを伝えるエバンジェリストとして活躍中。

科学的介護に求められる情報整理が、今までの取り組みの延長にあるものであったことが現場職員のモチベーション向上になった事例と言えます。さらに培った運用

第8回 現場職員の動機づけの必要性について

従前たる運用体制構築が実を結ぶ

ノウハウに加え、科学的介護推進体制加算は初めて作成する帳票であったこと、多職種の情報連携が必須であることから、情報集約の手順を部門ごとで明確化することに注力しました。ADL維持等加算については、バーセルインデックスの評価項目の判断基準を統一す



▲晴澄会宝木荘はケアプランPDCAサイクルを途切れることなく実施している

るため、法人内の専門スタッフが講師となり職員教育を徹底しました。これらの取り組みにより4月より円滑にLIFEデータ提出ができ、かつ従来のケアプランPDCAサイクルを途切れることなく実施できたことに職員自身が成果を感じています。データ提出の実績は制度開始半年を経て確実に積み上がっていますが、未だ多くの事業者より「入力作業負担」「現行運用体制の混乱」が聞かれます。データ作成に伴う負担感のギャップを埋めるため、次回は期待されるフ

高齢者住宅新聞：
2021年12月1日号より
(発行元：高齢者住宅新聞社)

